

会議結果報告書

令和3年2月12日

会議の名称	令和2年度第1回志木市立図書館協議会
開催日時	令和3年1月7日(木) 10時00分～11時30分
開催場所	柳瀬川図書館 2階 視聴覚室
出席委員	滝沢 慎委員、竹前榮二委員(職務代理)、内田征男委員 宮下 博委員、原藤 光委員(会長)、山本純子委員、 高橋ふじえ委員 (計 7人)
欠席委員	小川千秋委員、北嶋杏奈委員、小林美里委員 (計 3人)
説明員職氏名	(柳瀬川図書館) 桜谷館長、(いろは遊学図書館) 樺嶋館長 (宗岡公民館) 吉岡館長、谷岡副館長 (宗岡第二公民館) 吉田館長、安川主事 (計 6人)
議題	(1) 令和元年度志木市立図書館事業報告について (2) 令和2年度志木市立図書館事業概要について (3) 第三次志木市子ども読書活動推進計画(素案)について
結果	(傍聴者 0人)
事務局職員	早川主査、高山主査

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 あいさつ 原藤会長より

3 議題

(1)令和元年度志木市立図書館事業報告について

(2)令和2年度志木市立図書館事業概要について

※(1)・(2)ともに配布資料をもとに各館より説明

補足

(柳瀬川図書館)

- ・今年度の事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため現在行っていないが、よみきかせは10月から、対面朗読は1月より再開。
- ・コンビニエンスストア図書館資料返却等取次事業は、取り次ぎについて調整中で今年度中に実施開始予定。
- ・図書館システムの更新は、ホームページの改修として今年度中に予定。
- ・現在の運営について、感染予防として閲覧席の間引き、換気、資料のアルコール消毒及び滞在時間の制限等を行っている。

(いろは遊学図書館)

- ・今年度の事業は、3月から中止していたが、よみきかせ、おはなし会ともに10月から再開。
- ・防犯カメラの設置について、新聞の切り抜きが続けて起き、小学校と併設していることから、児童を守るため4台のカメラを設置予定。
- ・新しい生活様式下での運営として、感染予防として閲覧席の間引き、換気、資料のアルコール消毒及び滞在時間の制限等を行っている。

(宗岡公民館)

- ・今年度、約3ヶ月間の大規模改修を行い、その間、臨時職員を柳瀬川図書館といろは遊学図書館に派遣研修を行った。

(宗岡第二公民館)

- ・現在、全ての事業を中止している。紙芝居を利用した紙芝居の時間を新規事業として実施予定としていたが、実施できていない。

会長) 昨年度の事業報告、今年度の事業概要の説明の中で、何か意見はあるか。

委員) いろは遊学図書館の事業報告で、ビブリオバトルの実施があったが、どんな本が選ばれたのか。

説明員) 参加者は、全て市外の人であったが、一番に選ばれたのは映画にもなった「日々

是好日」であった。

委員) 今後、コロナ渦で事業の開催が厳しい状況であるが、他の館での新たな事業の試みはどう考えているのか。特に柳瀬川図書館はどうか。

説明員) ビブリオバトルについては、来年度以降、読書離れが進んでいる中高生を対象に実施を予定している。

委員) 配布資料の事業概要の中で、宗岡公民館の登録者数と利用者数が他の館と比べて、かなり違いがあるがどうか。

説明員) 宗岡公民館は、新規のみの登録者数。他の館は、累計数である。全ての館が統一の統計数としていなかったため、累計の登録者に修正し、後日差し替えとする。

会長) 現在、感染症対策を行った上での開館は厳しい状況ではあるが、在宅の時間が増え同時に読書の時間も増えたが、利用者のニーズに対応するにはどうしたら良いか。

委員) 学校関係でいえば、図書室の閉鎖をしたが、生徒用玄関にお楽しみセットとして、おすすめする本を置いたことがあった。その時の状況において、臨機応変にできることを考えていく必要がある。

会長) 社会が新しい生活様式となり、読書に対する意識も変化する中で、図書館の在り方について各館で意見交換をしながら、今後、より良い図書館の運営に努力していただきたい。

(3)第三次志木市子ども読書活動推進計画(素案)について

※計画の概要を柳瀬川図書館より説明

説明員) 配布した素案について、この場でご意見をいただきたい。その意見を反映させ修正をし、2月に意見公募を実施する予定。実施開始の時期にまた、素案を配布し意見をいただきたい。

会長) この素案の内容について、意見はあるか。

委員) 図書館の新規施策にICTの活用を取り上げているが、電子書籍を導入後にどのような展開を考えていくのか。また、基本方針の2で子どもが読書を楽しむ機会を子どもの成長段階に応じた内容で区切って表示した方が良いのではないか。

説明員) ICTの活用については、導入するための設備にかかる費用と電子書籍を購入する費用が必要になるので、具体的に予算化し、蔵書構成なども考えた上で、5年間の計画期間に導入を視野に入れた検討を進めていきたい。

委員) 子どもの定義について、どう考えているのか。就学前、小中学生、高校生と区切った方が良いのでは。

説明員) この計画の対象として、0歳~18歳としている。内容には、乳幼児・小学生、青少年としているが、第一次、二次ともこのような区分けをしている関係上、このような区分けとなっている。

委員) 地域での取組について、家庭に対して具体的にどのような取組を考えているのか。子どもに家族が本を読む姿勢を見せることが大切だと考える。また、取組の主体として高等学校が載っているが、小中学校は行政との関わりがあるが、高等学校との取組はどのように実行していくのか。

委員) 家庭についての取組を増やした方が良い。家庭の中で活字に触れさせるよう、本に限らず新聞を読ませる等、検討してみてもどうか。

説明員) 2 主体別の具体的な施策の取組の章において、地域での取組として、家族間のコミュニケーション機会の提供について触れている。3 主要な重点施策の取組の章で、地域での取組について記載していないので、項目立ても含め検討をしていく。高等学校の取組については、過去には県立志木高等学校と連携し、読書案内をした実績がある。私立の高等学校との連携は中々難しいが、読書離れが著しい高校生を対象に読書活動を推進するには学校を経由するのが効果的と考えるので、検討していきたい。

委員) 主要な重点施策を5カ年計画の目標とするならば、第3次の推進方策のはじめに提示してみてもどうか。また目標値として、読んでない人という不読率を調査するのではなく、1ヶ月に何冊読んだのかを調査した方が良いのでは。ICTの活用について、2月以降に小学校と中学校にタブレットが配布される予定のため、読書通帳をホームページにリンクし見れるようにする等、5カ年計画の中で工夫して実施してほしい。また、市立図書館と学校図書館のシステムのネットワークについて、3校ずつとか計画的な整備の検討をしてはどうか。学校図書館の専門的職員体制の整備について、市外の施設の視察等を考えてほしい。外に出てみれば知らなかったことなどが見えてくるのではないか。また、3 主要な重点施策の取組の章に地域の取組がないので、項目を作してほしい。

説明員) 不読率については、志木市将来ビジョンの第五次後期実現計画の目標でもあるため、このままの目標項目とします。第4次計画以降に1ヶ月に何冊読んだのかというような目標値の設定に努めていきたい。読書通帳やシステムのネットワークについては、具体的な実施内容は計画そのものでなく、計画を具体的な推進していく中で検討させていただきたい。本日いただいた意見を精査し取り入れて、2月には意見公募を実施し、終了後に意見があれば反映させ、委員に結果を報告していく予定。